

「第8回近畿中心市街地活性化ネットワーク研究会」が 和歌山県田辺市において開催

2月10日(木)午後1時10分から「第8回近畿中心市街地活性化ネットワーク研究会」が和歌山県田辺市田辺商工会議所3階会議室にて開催されました。

この日は、北は滋賀県長浜市、京都府福知山市、西は兵庫県姫路市など近畿2府4県から中心市街地活性化に係わる12の市から行政、中心市街地活性化協議会、まちづくり会社、商工会議所の担当者が、また近畿経済産業局並びに中小企業基盤整備機構近畿支部などからの関係者36名が参加されました。

それぞれ各地からのメンバーが午後1時10分JR紀伊田辺駅に集合し、その後現地視察について説明を受け、2班に分かれ駅前にある「南紀みらい事務所(外観のみ)」から「味小路」、そして「銀座通り」から「ぼぼら銀座」、「南方熊楠顕彰館」そして研修場所の「田辺商工会議所」へと案内して頂きました。

その後「ネットワーク研究会(全体会)」へ移り、冒頭南紀みらい株式会社の森川直巳取締役より、中活事業である「ぼぼら銀座」については計画から完成まで、市・南紀みらいなど皆でおこなって来られた事業で、それぞれ皆の役割、機能がまちづくり事業には必要不可欠だ。まちづくりを進めるにおいて一番大変なことは如何にモチベーションを維持していくかということだと思つたのお話を伺いました。そして本日の研究会を機会に皆様方より一層の絆を深めて頂きますようにとご挨拶をいただきました。

その後、南紀みらい㈱事務局の尾崎弘和氏より「田辺市中心市街地と南紀みらい㈱の取り組みについて」ご説明を受けました。

田辺市全体で人口は8万に足らずで、市街地は昭和45年の段階で若い人が約9千人だったのが今は半分に、また逆にお年寄りの世代が3千人から倍になって来ていてあきらかに人口構造が変化しつつあるそうです。田辺市は旧法の時は、特に動きはなかったそうで



すが、まちづくり新法に変わってから一気に進めていかれたとのことでした。2年掛け平成21年に国の中活基本計画の認定を得られ、テーマは「都市機能の向上と、自然と歴史を生かした街づくり」で平成21年から26年の5年間で各事業を進めておられるとのことでした。目標数値の設定項目は歩行者・自転車の数を増やすことと、中心市街地の人口減少傾向をふみ止めるとなっているそうです。

まちづくり会社としての南紀みらい株式会社は旧(株)紀南ふるさと開発センターと旧(株)まちづくり田辺の二社が平成21年11月に合併して出来た会社で、社名は滋賀県の「(株)みらいもりやま21」の“みらい”って良いなと言うことで決まったそうです。事務局体制も整い、若い人達も動き始め「扇が浜イルカふれあい事業」の受け皿として係わったことは、会社として良い

経験になり、良い実績になったと思いますと話されていました。また「あがら・たなべえ調査隊」による街なかマップ作成やバルなどは、お金は生まないが、大勢のスタッフとの活動を通じて、人づくりや郷土愛といった部分で大事な事業であると思っておられるとのことでした。また戦略的中心市街地商業等活性化支援事業補助金（中小企業庁）を活用された田辺市銀座複合施設整備事業（ぽぽら銀座）など、この他にも会社の取り組まれている事業などについても色々ご説明を頂きました。



続いて「あがら・たなべえ調査隊」の池田周作隊長、並びに北田健治副隊長より「あがら・たなべえ調査隊」の組織・活動についてお話をお聞きしました。

まず活動が始まったのは平成 20 年 6 月のまちの賑わいづくり意見交換会で、若い世代から街づくりへのアイデアを出して頂き、同時に地域振興、街づくりへの関心を高めるという趣旨で地域の 20 代から 30 代の民間人が集まったのが最初で、この時は、整備された扇が浜を今後どのように生かして行こうかという話し合いだったそうです。その後、中々これと言ったイベント企画が出なかったそうですが、ちょうどその頃観光協会の方からの事業で「あがら丼」についての「あがら丼モニター事業」に取り組み本格的に始動されたとのことでした。当初 9 名だった調査隊員もこの事業をきっかけに増えて行ったそうです。またこの辺りから中小機構のアドバイスを受け勉強会などを通じて、自分たちがこの田辺を本当に知っているのかと問い掛けられたのをきっかけに「まち歩き調査」を実施され結構面白い発見があったり、知っていたけど忘れかけてたものなど、自分たちで街を歩いて見る事は結構盛り上がったと話しておられました。またイルカふれあい事業のスタートによりイルカを見に来られるお客さんをどうにか街なかに誘引するシステムが出来ないか

ということで、レンタサイクルとマップを活用して街なかを歩いてもらえればと企画されたそうですが、イルカは夏のイベントで、真夏の暑いなか自転車は利用されず、イルカは 1 万 5 千人を呼んだそうですが、レンタサイクルの利用は 20 台ほど、結局この事業はうまく行かなかったそうです。ただマップに関しては結構、街なかでこのマップを見ながら歩いている人を見かけ、また掲載されたお店の評判も良かったと成果があったように思いますと話されていました。マップ事業の経験から自分達が、そこに住んでいる者にしか分からない情報、街の魅力を再発見し、再発掘し、自分達調査隊も楽しみながら内外に伝えて行く、これを目的にして行こうということを再認識されたそうです。続いて自分たちにも結果が見えるイベントとして昨年 5 月に伊丹まちなかバルを視察され刺激を受け「南紀田辺☆うめえバル」を企画されたそうです。田辺には打ってつけの場として「味小路」という飲食店の集積地があってバル開催を決定、結果的には自分たちも楽しみ大成功を治められたそうです。9 名からスタートしたメンバーも現在 44 名おられるそうです。公務員・サラリーマン・農協職員・事業者など。この調査隊にまだまだ可能性を感じ、まちづくりと言うのは終わりも有りませんが、飛躍というよりも一步一步を大事にしながら調査隊を成長させて行ければ、また皆と一緒に田辺を盛り上げているという実感を味わいたいと思うと話しておられました。

引き続き、イルカふれあい実行委員会の田上雅人実行委員長より「扇が浜イルカふれあい事業」についてお話をお伺いしました。

平成 21 年から扇が浜の海水浴場にイルカを太地町から借りて来て子供たちや、観光客の人に見て頂けたらということで始まったそうです。実行委員会を立ち上げるに当たって大工さんや潜って作業してくれる人も欲しいと一人ひとりに頭を下げ 7 人で実行委員会を立ち上げられたとのことでした。イルカは癒しの効果があると思いオープン式典前には地域の幼稚園児や小学生を招待して見て頂いたそうです。事業の成果としては、平成 17 年に扇が浜が整備された当初の海水浴場来場者は約 4 万人、その後 18 年、19 年と約 4 万人、20 年は 6 万人、そしてイルカふれあい事業がスタートした 21 年は約 11 万人、昨年 22 年は約 10 万人

ということで県も10万人を越えたら2期工事もしますよという約束もあって2期工事の調査をして頂くこととなったそうです。最初オープン時は各4大新聞に掲載され、地元新聞社にも大きく取り上げられメディアの力はすごいと感じられたそうです。2年目もまた更にメディアに取り上げられることも多くなり、旅行雑誌の「るるぶ」や「じゃらん」、「ぱる」にも取り上げられPR効果はより高いものとなったそうです。また地元商店街も海に人が来るのだったら、イルカとスタンプラリーを繋いだり、マップや観光パンフを配布してお客さんが回遊してもらえたらと関係団体との連携を取られたとのことでした。イルカふれあい事業メンバーも30人に。台風でイケスが壊れたり問題も起こったそうですが前向きなメンバーがいて初年度を乗り越えられたそうです。新たな問題を一つひとつ乗り越える度に、委員会メンバーの成長もあったと話しておられました。田上委員長はまた今年もメンバーと共にイベントを何とか成功させて、この海水浴場並びに田辺市の活性化に繋がりたいとおっしゃっていました。

続いて本日の研究会第1部の最後として田辺市計画課の濱本栄二氏より「まちづくり活動への行政としての関わり」についてお話を伺いました。

濱本氏は、田辺市役所計画課でまちづくり交付金を担当されておられるとのことでした。

平成15年頃、スケボーをする若いお兄ちゃんが、扇が浜の駐車場でスケボーをしていたら、スケボーの角がタイルに当たってタイルがボロボロになったので直して欲しいと建設部を訪れたそうです。そんなにスケボーをする所が無いのなら一緒に考えようと、扇が浜の整備で県に問い合わせると、一角にテニスコートを作るということになっていたのですが、市内どこにでもあるテニスコートを風の強い海の横に作ってどうなるのかと思い、スケボーのお兄ちゃんをバックアップし市に要望書を出したりして最終的にスケボーの出来る場所とバスケットボールの片面ゴールとバンドが出来る舞台を作り、平成20年にオープンされたそうです。この扇が浜が平成17年に出来て3年間は4万人で足踏みしていたのが平成20年には6万人まで増え、せっかく皆の意見で整備された施設なので何かこの場所でイベントをとということになり、そこでイルカふれあい実行委員会の田上さんやちょうど当時商工

会議所青年部会長に前任者の田上さんから代替わりされた調査隊副隊長の北田さんらにお願いされフリースタイルフェスタというイベントを実施されたとお話でした。当初、北田さんに何でもかんでも俺らに押しつけてくるなと言われたそうですが、その時行政が前に出るとうまく行かないと思われ先輩に相談されたら、イベントは誰か一人アホにならないと成功しないと聞き、それが今の濱本さんに繋がっているとおっしゃっていました。やらされている感がある限り、うまくいかない、皆で盛り上げていかないといけないと思われたそうです。田辺市役所には900人の職員がおられるそうですが、イルカの調教を出来るのは濱本さんだけで良い経験になったと話されていました。濱本さんも当初あがらたなベェ調査隊に入られた頃は、テンションも低かったそうですが、街歩きが転機となり、今まで見過ごしておられた風景に気づき、こんなことも知らないで街づくりをいう自分が恥ずかしいと思われたそうです。

また濱本さんが、役所内でバルのチケットを売って回っておられたら市民の方から建設部の職員が食券売って回っていると通報があり、その結果濱本さんは始末書を書かされたそうです。それに同情して沢山の職員がチケットを購入されたそうです。最後に濱本さんの目指す公務員像は、自己満足として公務員らしくない公務員になって行きたいと話されていました。

その後、同研究会プログラム第2部のワークショップ、テーマ①は「地域で活躍できる人材を育てていくためには」テーマ②「地権者との交渉術ー各地の実体験を聞くー」について7名から8名の4班に分かれ、テーマに沿って意見を述べ、最後にその意見のまとめを各班の代表が皆に発表し今回の研究会を終えました。

今回の研究会で、田辺市のまちづくりは若手リーダーを中心に広く皆で知恵を出し合われ、また積極的にまちづくりに参画し、それぞれの課題解決に向けた取り組みをされていることに感動を覚えました。





「第2回あるくん奈良まちなかバル」が開催されます！

と き 5月20日（金） 午後6時から翌午前5時まで
5月21日（土） 午後12時から翌午前5時まで

と ころ JR奈良駅・近鉄奈良駅周辺の参加協力飲食店
(3月22日(火)まで、決められたエリア内での参加協力飲食店を募集しております。)

イベント内容

- スペインの食文化を代表する「バル」を奈良のまちなかに再現し、お店が出す「ワンドリンク+1品」をハシゴして歩くイベントです。
- 一冊3,000円（5枚つづり）を前売チケットとして販売します。当日チケットは一冊3,500円で販売します。バル参加希望者はこれを購入し、バルマップ片手に新緑の奈良の夜を楽しんでいただきます。
- 「あとバル」として、参加者は未使用のチケットをバルの翌日5/22～5/29までの8日間「あとバル参加店」でチケット1枚600円の金券として飲食代金の一部として使用できます。



【バルに関するお問い合わせ先】

奈良市中心市街地活性化協議会事務局

※ 月～金 9時～17時

TEL & FAX : 0742-26-1666

E-mail : narachukatsujimu01@yahoo.co.jp

〒630-8586 奈良市登大路町 36-2

(奈良商工会議所内)

「ならセグスタンプラリー 中心市街地まちなかウォッチング！」 開催のお知らせ

1. 主 催 奈良市中心市街地活性化協議会
2. 企画・運営 奈良テレビ放送株式会社
3. 開催日時 平成23年3月19日（土） 10:30～14:00
4. エリア 近鉄奈良駅・JR奈良駅周辺中心市街地商店街内協力店
5. 内 容 試食・試飲を楽しみながら巡る美味しい楽しいスタンプラリー
奈良テレビのワンセグ放送「ならセグ」で放映される5つのキーワードと各店舗を巡りながら10個のスタンプを集めると参加賞の他に抽選で商店街並びにご協力店舗からの景品をプレゼント。
当日のイベントは携帯電話ワンセグ放送9chの「ならセグ」ch1で午前11時から午後1時30分までご協力店舗の紹介をご覧いただけます。



※募集いたしました、当イベントへの参加者については、すでに募集人員の100名に達し締切らせていただきました。

※イベント開催にご協力いただきましたお店の方には、関係者一同心から御礼を申し上げますとともに参加者も楽しめ、お店も賑わうイベントとなるよう関係者一同一生懸命事故等の起こらないよう注意して参りますので何卒よろしくお願いいたします。